

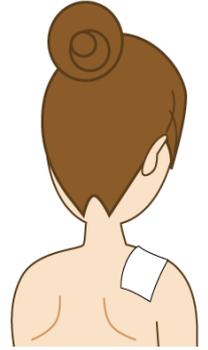


# しいのみつうしん

第88号 2017年9月

## 湿布って何でしょう？

湿布は大きく、「温湿布」と「冷湿布」の2種類に分けられます。主に筋肉の緊張を和らげる目的で用いられる他、打ち身・ねんざや皮膚病などの治療のために使用されるものもあります。水分が多いため肌への密着度が高く、薬効成分が効率的に浸透します。布の部分はその薬部分を保護して貼ったままでの活動を容易にし、長時間の保持にも役立ちます。古くには、馬肉のスライスが打ち身などに効く湿布として用いられ、練った生薬を布に塗布して肌に貼ったりしていました。現代でもそれは行われており、市販品としては腰痛や肩こり・筋肉痛の緩和のための湿布薬が普及しています。素材面からみると「パップ剤」と「テープ剤（さらに薄いものをプラスター剤と呼ぶ）」に分けられます。2016年4月に行われた湿布に関する医療ルールの変更があり、1回の処方箋で出せる湿布は、原則最大70枚となりました。又、今まで記載されていた薬局で調剤される湿布薬の合計枚数に加えて、それが何日分に該当するか、もしくは1日あたり何枚使用できるようになっているかが記載されるようになっています。これも過剰な湿布薬の処方を削減するためのブレーキになることを期待しての変更と考えられます。



## 冷湿布と温湿布

**冷湿布（英：Cold Patch）**：主に炎症・痛みの抑制・治療を狙ったもの。筋肉痛や肩こりなど、急性の痛みの緩和に効果的。冷却成分はカンフルやメントール、ハッカ油など。皮膚の冷感点を刺激します。

**温湿布（英：Thermal Patch、英：Heat Patch）**：主に血行の改善を狙ったもの。単純に温度を高くしたのから、トウガラシエキス(カプサイシン)、ノニル酸ワニリルアミドなどを含んだものもあります。皮膚の温感点を刺激することから、慢性疾患あるいは腫脹緩解後の炎症性疾患に用いられます。温湿布は、入浴前30分～1時間前にはがしてください。ピリピリ感のような刺激があります。

## 第二世代の湿布



第二世代の湿布とはイブプロフェン（ブルフェン®、エスタックイブ）、ジクロフェナク（ボルタレン®）、インドメタシン、フェルピナク、ケトプロフェンなど、強力な消炎鎮痛剤（NSAIDs）を配合したものです。炎症の四徴の内、発赤や熱感、ヒスタミンやセロトニンによって引き起こされるので、適切な時に使用すれば、強い鎮痛作用が得られます。痛みの原因が筋肉疲労でない場合は、原因疾患の治療が必要です。可動部位の貼付に適しています。

湿布のタイプには次の二種類があります。

## パップ剤

比較的厚いタイプの湿布薬で、白いフランネル地に薬剤を塗布し僅かに水分を含んでおり湿った感じがします。肌への負担が少ない反面、はがれやすい欠点があります。動きの少ない腰や肩などの部位の使用に向いています。また、剥がれ易いという欠点は、剥がし易い長所でもありますので剥がすときに、あまり痛くありません。比較的温湿布向きです。

## フラスター剤(テープ剤)

薄いタイプの湿布薬で、脂溶性の肌色のポリエステル地の基材に薬剤が塗布されていますので目立ちません。水分を含まないためパップ剤ほどの冷却効果は望めません。剥がれ難いというメリットがある反面、被れるなどの皮膚のトラブルを起こすことも有りますので肌の弱い方は使い方に注意が必要です。剥がれ難い分、肘や膝などの動きのある部位の使用に向いています。さらに、剥がれ難いために、使用後剥がすときに痛みを伴うことが有ります。1日1回貼付のものと1日2回タイプのものがあります。冷湿布に向いています。

## 主な注意点

### ・接触皮膚炎

貼付部位に発疹・発赤・掻痒感がでたら剥がした方が良いでしょう。症状が出た場合にはステロイド外用剤、抗ヒスタミン剤(痒み止め)の内服などで治療するのが一般的。皮膚の弱い人は貼付時間を短くするなどします。消炎鎮痛剤配合の貼付剤は6時間貼付後、剥離後も3~6時間皮膚に成分が残るため、3時間ぐらいあけて貼付した方が良いでしょう。

### ・光接触皮膚炎

光毒性と光アレルギー性に注意が必要です。ほとんどは光アレルギー性で、光感作物質に長波長の紫外線(UVA)が当たり、化学構造が変化して個体が感作されることで起こります。貼付剤を剥がした後の皮膚が紫外線に当たっても発症します。予防としては、衣服、帽子、手袋などで貼付部位を覆うのが良いでしょう。覆えない部分には日焼け止めを塗ります。日焼け止めは「PA+++」で示されるUV防止効果の高いものを使用するのが望ましいです。ケトプロフェン含有製剤(モーラス、タッチロン)では、接触部位だけではなく、全身の自家感受性皮膚炎、再使用での症状再発例、終了数ヶ月後の過敏症例があるため剥がしてから時間がたっても注意が必要で、4週間と言われています。ケトプロフェンはオキシベンゾン(成分表で〇〇ベンソフェノン)と交叉感作性が報告されているので、オキシベンゾンを含む日焼け止めを選択する必要があります。日焼け止めを選ぶ際には裏の成分表をチェックしましょう。

### ・妊婦への投与注意

・ケトプロフェンの外用剤を妊娠後期の女性に使用した場合 胎児動脈管収縮が起きることがあります。処方された本人以外使わないようにしましょう。(家族や知人にむやみにあげないようにする)  
・妊婦(妊娠後期以外)、産婦、授乳婦が使用する場合は、医師や薬剤師によく相談して下さい。

### ・アスピリン喘息

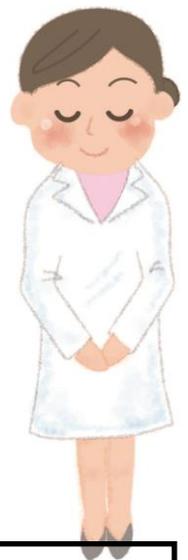
酸性消炎鎮痛剤などに誘発される喘息は、貼付剤でも発症します。喘息の既往がある人は、特に注意。

### ・はがすときの注意

はがすときは、ゆっくり肌に沿ってはがしましょう。

片方の角から肌に沿って、ゆっくりはがすと、肌への負担が少なく済みます。

一気にはがさないでください。また**水やぬるま湯で湿らせる**とよりはがしやすくなります。



しいのみ薬局 関市上白金 105-1 ☎0575-27-0130 Fax 0575-27-0131

しいのみセンター薬局 岐阜市北山 1-14-27 ☎058-241-1818 Fax058-241-1839

華陽しいのみ薬局 岐阜市祈年町 1-19-2 ☎058-271-1640 Fax058-275-1949

南しいのみ薬局 岐阜市芥見南山 2-8-47 ☎058-244-2112 Fax058-244-2110

お薬や「健康食品」のことなどについてお気軽にご相談下さい。

ファルマネットぎふ ホームページ (<http://www.gifu-min.jp/pharma/>)